

新聞を活用した国語科の授業実践例

兵庫県立姫路東高等学校 校長 田磨 幸夫
教諭 池田 寛人

1、はじめに

本校は姫路城の直ぐ東に位置する普通科高校である。キャリア教育に力を入れており、生徒が自分の将来を考える機会を多く取り入れた進学校である。

そんな本校がNIE実践校に指定されたのは今年度が初めてである。それに加え、稿者が3年次を担当していたこともあって、自分の受け持っている授業の中でNIEを実践した。

そのため、本稿で紹介する実践は、全校的な取り組みではなく、日々の授業時間の間隙を縫って行った実践である。以下、新聞を教材とした古典の授業と現代文の授業（考査）の実践を報告する。

2、「月」を素材とした和歌・漢詩の鑑賞

(1) 実践概要

新聞を活用した古典の授業の試みとして、「月」を素材にした和歌と漢詩を鑑賞する授業を行った。日本で古くから「月」が愛でられてきたことに気付くことと、ものの見方、感じ方を豊かにすることを目標にし、現代の「月」にまつわる新聞記事と「月」を素材とした和歌・漢詩に触れて感想を交流することを学習活動とした授業である。

本実践は平成29年において中秋の名月に当たっていた10月4日（水）の翌週、10月10日（火）に行った。稿者が単独で受け持つ授業として「古典演習」があったので、その時間に実践した。そのため普通クラスではなく、文系クラスのうち「古典演習」の授業を選択

していた生徒たち33人を対象に授業した。

(2) 実践内容

○授業の流れ

- I 月にまつわる新聞記事（①～④）を配布する。
- II 月を素材にした和歌、漢詩を複数載せたプリント（⑤）を配布する。
- III プリント（⑤）の中から気に入ったものを一つ選ばせ、選んだ理由をワークシート（⑥）に書かせる。
- IV ワークシート（⑥）を近くの生徒と交換してコメントを互いに書かせる。
- V 授業者も自分が最も気に入ったものを、理由を添えて紹介する。

○使用した教材

新聞記事①

（産経） 「名月の夜 雅やか」

新聞記事②

（読売） 「中秋の名月、天高く」

新聞記事③

（毎日） 「ミナト照らす円 神戸」

新聞記事④

（神戸） 「名月と姫路城にうっとり
観月会に1万6千人
伝統芸能や地酒、食事満喫」

※いずれの新聞記事も平成29年10月5日（木）付朝刊、写真と記事の構成、「 」内は見出し

プリント⑤

く月とを對にうたはせ

天の邊に 雲の渡立ち 月の舟 星の林に 渡さぬを思ひ 秋夜大層

(大衆)

天の邊に雲の渡立ち、月の舟は星の林に渡さぬを思ひ、秋夜大層

有明の つれなく思えし 別れより 時ばかり 愛さもののなし 壬生品

(大衆)

有明の月も思えし別れはななく思えし、別れより時ばかり愛さもののなし、壬生品

この世をば ぬれぬんやとて 望月の ぐななるころも なしと聞く 瀬原道

(大衆)

この世をばぬれぬんやとて、望月のぐななるころもなしと聞く、瀬原道

願わくば 花の下にて 春死なむ その如月の 望月のころ 西行法師

(大衆)

願わくば花の下にて春死なむ、その如月の望月のころ、西行法師

夢みなさ 心の目を 花だてて 浮世の闇を 照してやれ 伊藤清宗

(大衆)

夢みなさ心の目を、花だてて浮世の闇を照してやれ、伊藤清宗

く月とを對にうたはせ

I

常夜燈 常夜の思ひ 李白

秋宵有月光 望遠地上望 秋宵月光望 望遠地上望

夢魂望山月 秋望思故鄉 夢魂望山月 秋望思故郷

(大衆)

秋宵有月光望遠地上望、秋宵月光望望遠地上望、夢魂望山月秋望思故郷、夢魂望山月秋望思故郷

II

月夜 月夜 杜甫

今夜鄜州月 閨中只独看 今夜鄜州月 閨中只独看

遥想小兒女 未解憶長安 遥想小兒女 未解憶長安

香露沾我衣 清輝照我衣 香露沾我衣 清輝照我衣

何時倚虛幌 双照淚痕乾 何時倚虛幌 双照淚痕乾

(大衆)

今夜は、鄜州の月が事は離るるに、閨中只独看、遥想小兒女未解憶長安、香露沾我衣清輝照我衣、何時倚虛幌双照淚痕乾

III

八月十五日 望遠中秋夜 月夜 白居易

八月十五日望、望中に独り坐し、月に對して元九を思ふ

銀燭秋光冷畫絳 輕羅小扇撲流螢 天階夜色涼如水 坐看牽牛織女星
三夜後 新月也 三夜後 新月也 三夜後 新月也 三夜後 新月也
遙想小兒女 未解憶長安 遙想小兒女 未解憶長安 遙想小兒女 未解憶長安 遙想小兒女 未解憶長安
何時倚虛幌 双照淚痕乾 何時倚虛幌 双照淚痕乾 何時倚虛幌 双照淚痕乾 何時倚虛幌 双照淚痕乾

(大衆)

銀燭秋光冷畫絳、輕羅小扇撲流螢、天階夜色涼如水、坐看牽牛織女星、三夜後、新月也、三夜後、新月也、三夜後、新月也、三夜後、新月也、遙想小兒女、未解憶長安、遙想小兒女、未解憶長安、遙想小兒女、未解憶長安、遙想小兒女、未解憶長安、何時倚虛幌、双照淚痕乾、何時倚虛幌、双照淚痕乾、何時倚虛幌、双照淚痕乾、何時倚虛幌、双照淚痕乾

(註) 上段・・・下段の望遠中秋夜

IV

十五夜望月 十五夜望月 王維

中庭地白樹栖鴉 冷露無聲濕桂花 中庭地白樹栖鴉 冷露無聲濕桂花
今夜月明人盡望 不知秋思落誰家 今夜月明人盡望 不知秋思落誰家

(大衆)

中庭の地白樹栖鴉、冷露無聲濕桂花、中庭地白樹栖鴉、冷露無聲濕桂花、今夜月明人盡望、不知秋思落誰家、今夜月明人盡望、不知秋思落誰家

V

八月十五日 月夜望遠 杜甫

八月十五日望、月夜望遠、杜甫

今夜鄜州月 閨中只独看 今夜鄜州月 閨中只独看
遙想小兒女 未解憶長安 遙想小兒女 未解憶長安
香露沾我衣 清輝照我衣 香露沾我衣 清輝照我衣
何時倚虛幌 双照淚痕乾 何時倚虛幌 双照淚痕乾

(大衆)

今夜は、鄜州の月が事は離るるに、閨中只独看、遥想小兒女未解憶長安、香露沾我衣清輝照我衣、何時倚虛幌双照淚痕乾

(註) 望遠中秋夜・・・望遠中秋夜

ワークシート⑥

課題研究「古今集」授業プリント	
組	番 名前
月を題材にした和歌、漢詩の中から気に入ったものを二つ選び、その理由をきいて。	
一、気に入ったもの()	
二、気に入った理由	

○生徒の記入例（ワークシート⑥）

例 1（気に入ったもの＝和歌①）

この和歌を見た途端、情景がすぐに思い浮かんだから。昔は電気が無く、月や星の光がはっきり見えただろうから「星の林」はよりきれいに見えたんだろうなと思いました。「月の海」、「雲の波立ち」、「月の舟」、「星の林」などの比喻表現がきれいだと思います。

例 2（気に入ったもの＝和歌⑤）

幼い頃から病気で片目を失明したり、母に毒を盛られたり、父を失ったりと苦難の人生を送り、その後も何度も命の危機に直面しながらも戦国の世を渡り歩いた力強さが感じられ、彼自身の生き様をまさに物語る和歌だと思ったから。

例 3（気に入ったもの＝漢詩Ⅰ）

まどからさしこんでくる光が私はとっても好きできれいだなと思いました。また、大学生になり一人暮らしを始めると、故郷のことを思ったりするのかなと思うとなんだか感動しました。

(3) 実践の感想

本実践は日本で古くから現代にいたるまで「月」が愛でられてきたことに気付くことを目標として、新聞記事を導入に活用したが、その意図と学習活動が合っていなかったことが反省点の一つである。

また、1 時間のみで取り組んだため、和歌や漢詩を読み深めることがないまま鑑賞する形となった。生徒たちの鑑賞文もそれ相応のものになるだろうとは思っていたものの、やはり心残りを感じた。時代背景を踏まえて詠み手の思いにより深く迫ったり、複数の作品を読み比べて表現技巧を吟味したりするような学習、そして「月」をテーマにした単元学習を構想し、実践してみたくなった。

3、評論文「猫は後悔するか」の考查問題として

(1) 実践概要

評論文教材「猫は後悔するか」(明治書院『現代文B』)の考查問題を作成する際に、新聞記事(神戸新聞 2017 年 5 月 10 日付)を活用した。本実践は、その記事と本文を読み比べて自分の考えを述べる問題を考查問題として出題したものである。

(2) 出題した問題

「(3) 実践の感想」の後に示す。

(3) 実践の感想

批判的読解力の育成を目標とした授業において、比べ読みは有効な学習活動の一つとして挙げられるだろう。本実践を通して、新聞記事も読み比べる教材として活用し得る可能性を見出すことができた。今回は試験問題として実践したが、時間がとれば、授業中の学習活動として取り組んでも良かったと思った。また、生徒達が書いた解答をまとめ、全体にフィードバックするところまででけれ

ばより良かったと思う。

[illegible]

4、終わりに

N I E実践校に指定されて 1 年目である今年度は、構想する時間や実践する時間を捻出することが難しかった。本稿はそのような状況でも可能な実践例として参考にしていただければ幸いである。

ここ数年、文字だけによるテキストに加え、規約や表などを含む多様なテキストから情報を取り出したり、その取り出した情報を統合して推

論したりする力が求められるようになってきている。それに応じる形で大学入試も変わりつつある。新聞は多様なテキストから出来ているため、今求められる力を育む教材として大きな可能性を秘めているように思う。

来年度はそうした新聞の可能性に着目し、「実社会に必要な国語の知識や技能を身につける」授業づくりに新聞を活用していきたい。

